

第1回上流部会で頂いた意見（議事要旨より抜粋）

分類	意見	補足説明資料
治水	安全、安心に関しては、立ヶ花狭窄部をなんとかしていただきたい。立ヶ花の課題は下流の無堤地区、県管理区間更には新潟県側に影響があることから難しい課題であるが、何とかしなければならない課題である。新潟にも出かけていって早く対応してほしい旨お願いをしている。そのためには、まずは堤防を強化していただきたい。	
	平成18年の洪水時には利水ダムによる流量調節も行われたと聞いている。安全・安心については技術論だと思うが、お金をかけてしっかりやっていただきたい。	
	千曲川の一番上流に、ダムの計画があったが、とり止めとなったと聞いている。安全安心の観点で影響がなかったが疑問である。	
	狭窄部については飯山も同じであるが、この課題をどう解決するのか。特に昨今、地球温暖化の影響についても課題視されている。長期的視野に立ってこのような課題をどう考えていくのかをお示しいただきたい。	千曲川・犀川の現状と課題【補足】 「危機管理対策について」
	立ヶ花に関しては、もともと氾濫していた場所の周りに家が建ち、自由に氾濫していたのを流路を固定したため、トラブルスポットになったように見える。地形形状はどのようになっているのか。	
	危ないところは強固な堤防で整備しなければならないことはわかるが、上流の洪水調節施設の計画が変わればかさ上げが必要となる。長いスパンで見ると同じ事の繰り返しになるのではないか。	
	狭窄部という大きな課題がある事は聞いているが、上流部にも大きな課題がたくさんあると思っている。30年というスパンの中で予算がどれだけ付き、どれだけ整備できるのか。整備の優先順位を決める上で一番大きな課題は、ここだということをもう一度教えていただきたい。	
	上流部では完成堤防が非常に少ない状況にあり、不安がある。	
	整備計画は、30年のスパンということであるが、目標流量の途中変更というのは基本的にはないのか。	
	地域の住民が安心して生活できる環境をつくることは重要なことである。最近、ゲリラ的な豪雨もあり、地域の住民が既設利水ダムの治水利用について、検討をしていく必要があるのではないか。	千曲川・犀川の現状と課題【補足】 「利水ダムの特例的な流量調節について」
築堤をしてもらえばいいが、堤防はすぐにはできないので、河川の安全度を上げるために貯水池等を設置する計画をしてもらえば安心して生活できる。		

分類	意見	補足説明資料
治水	<p>犀川については治水ダムだけではなく、大きな電力ダムが多く、緊急時の対応により効果を発揮することが期待される。それに対し、千曲川については、大きなダムがほとんどなく、両河川のアンバランスが非常に激しいと思う。</p>	
	<p>昭和58年の洪水を当面の目標とするのはいいが、それ以上の洪水が起こらないとは限らないので、そういうことを念頭において整備計画も立てなければいけないのではないかと思う。</p>	
	<p>狭窄部の課題については、上下流のバランスが必要との中で、方法論を考える必要があるものと感じた。</p>	
利水	<p>千曲川河川事務所の管理区間ではないが、佐久平の県管理区間にも流れ込み式の発電所があって、6割ぐらいが減水区間になっている。この部会に直接関係する課題ではないが、河川の正常な機能の維持に関する課題の一つだと考えられる。</p>	
環境	<p>2000年までサケの稚魚を放流する事業が長野県で行われてきた。21年間行われて約900万匹放流したが、上がってきたのは70匹だけであった。それは、減水区間があるからである。上流部会では長野県と新潟県の境の県管理区間は議論の対象外となっているが、この点については整備計画の中でどのように位置づけられるのか。新しい河川法では、治水・利水に加えて河川環境を重視している。その視点からも、サケが遡上できる信濃川が望まれる。</p>	<p>千曲川・犀川の現状と課題【補足】 「信濃川中流減水区間について」</p>
	<p>環境保全のパロメータとして生物の状況が引き合いに出されるが、アユやウナギは長野県下では野生絶滅の状況にある。アユを含める回遊魚を復活させるためには流域全体を通じた視野が必要かと思われるが、たとえばサケを復活させるといったビジョンまでを含めて考えていっていいのかわかるかということを知りたい。</p>	
	<p>生態学術研究に関しては、冠水頻度を考えて高さをきちんと計算した上で掘削すると、ただ自然破壊になるということではなく、外来種を排除出来たり、あるいはそこに水辺の植生が復活してくる。掘削する高さなどを考えることで、自然破壊ではなく、積極的な環境創出ができるのではないかと思う。</p>	<p>千曲川・犀川の現状と課題【補足】 「生態学術研究の取り組みについて」</p>
環境 (河川利用)	<p>利用の面では地方自治体として重要な課題と思っている。特に千曲川下流域などは非常にその恩恵を受けていると思っているが、まだ利用できる空間が残っている。それをどのように有効に使うかがポイントである。アレチウリ、ニセアカシアの繁茂により足の踏み場も無いような所もある。そういう所をスポーツ関係や親水公園といったものをつくることによって、河川を整備・管理する方法もある。また、そういったことを民間にやっていただくのも1つの方法と考えられる。</p>	
	<p>課題の中で最後のほうに出ている河川利用や地域連携という項目について、これから環境保全などいろいろな意味で必要になってくる課題であり、今後考えていきたいと考えている。</p>	
	<p>「千曲川」の名を冠している千曲市では、市全体の中で河川が占める割合は大きい。いかに市民が多く利用できるものにするかが重要と考える。</p>	

分類	意見	補足説明資料
維持管理	<p>犀川上流域では河床低下の課題も悩み。取水困難な状況が発生し、大きな課題となっている。湧水を利用するワサビが地域の特産となっているが、河床低下により従来のような地下水が無くなってしまふ。</p>	<p>千曲川・犀川の現状と課題【補足】 「総合的な土砂管理について」</p>
	<p>河床低下もあるが、局所的に河床が上昇している所もあると思う。砂防を専門としている関係上、土砂の流出、礫径、摩耗といった観点で考えてしまふ。土砂供給がなければ急流河川では掃流力が大きく、河床低下は当たり前と思うが、そういう河川に通常の河川堤防で対応可能か。また、土砂のコントロールをこの中で考えるのかどうかを伺いたい。</p>	
	<p>ワンドを造って頂いたり、公園を造ったりしているが、川の流れは複雑でワンドが埋まるなど課題が発生している。そのような課題についてどのように検討されているのか説明願いたい。</p>	
	<p>ニセアカシアについては養蜂家が利用するなどしており、害だけとは考えられないため、場所はパッチ状に残すなど、やり方は考えられるので、次回以降、議論できればと思う。</p>	
その他	<p>信濃川水系の国管理区間には、中抜けの区間がある。今日の話の中には含まれていないと思うが、県管理区間についてはどのように理解したらいいのか。直轄に変更、あるいは地方分権といった議論があるが、一級河川は直轄がいいのではないかと感じている。</p>	
	<p>地方分権の議論は承知しているが、中抜け部分の県区間について、これを一括して国で管理していただきたい。</p>	
	<p>千曲川の河川事務所は、過去から非常に優れた刊行物をつくっておられるので、ぜひこの機会に住民の皆さんに、知識の共有のために役立つような、千曲川の特性を大いに加味した川の読本みたいなものをつくっていただけるとありがたい。</p>	